

第5学年 国語科学習指導案

日時 平成22年9月30日(木) 5校時
学級 5年4組 男子17名 女子22名 計39名
場所 5年4組教室
授業者 教諭 佐々木 智子

- 1 単元名 物語を読み、自分の考えをまとめよう
教材名 中核教材 「わらぐつの中の神様」(光村図書)
補助教材 「小さな町の風景」(偕成社) 他

2 単元について

(1) 教材について

第5学年及び第6学年の「C読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」である。これを受けて本単元では、「読むこと」の内容「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」と「カ目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」の指導事項を重視し指導していく。

教材「わらぐつの中の神様」は、人の身になって尽くす心を大切に生きていくことの尊さを、おばあちゃんが孫のマサエに語り聞かせる物語である。構成は、現在—過去—現在となっており、時間の行き来があったり、謎解きのような一面もあったりし、児童の興味を引き付ける魅力がある。また、語りの中に擬声語、擬態語、ダッシュなどが多く用いられ、杉みき子作品の表現の特徴が見られる。それぞれの人物像、構成、表現を想像豊かに読むことができ、児童が作品の特色をとらえて自分の考えをまとめる力を付けるために適した教材といえる。

また、この単元では、同一作者の作品を補助教材として扱う。比べて読むことにより、作品の特色がよりはっきりとし、また、作品との出会いによりこれからの読書生活を豊かにすることにつながっていくのではないかと考え扱うこととした。

(2) 児童について

児童は、5年上「新しい友達」で登場人物の会話や行動から心情の変化を読み取る学習を行った。心情がわかる叙述にサイドラインを引き、自分の考えを書き込む方法は身に付いてきている。また、5年上「千年の釘にいどむ」の学習では、読書会を開き自分の考えを深めるという学習を行った。叙述から職人の思いを読み取り、自分の考えをまとめ、グループで交流することによって考えを深めたり広げたりした。これらの学習を通して、読みの視点に関わる叙述を見付けて自分の考えを書くことや、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点を考えながら聞いたり書いたりすることができるようになってきている。

しかし、それぞれの叙述に対応した考えは書けるものの、それらをもとに自分の考えをまとめる力は十分ではない。また、多くの児童は読書が好きだと答えているが、自ら進んで図書室に足を運ぶ児童は少ない。

そこで、本単元では、人物像、構成や表現などに着目して読むことを通して作品の特色をとらえ、それについて自分の考えをまとめる力を育てていきたい。友達の推薦文を読んで本に興味をもち、読書生活を豊かにしようとする態度も育てていきたいと考える。

(3) 指導にあたって

本単元では、作品の特色やよさをとらえ、相手に具体的に伝えるために、本を読んで推薦文を書く言語活動を取り入れる。児童は、推薦文に初めて挑戦するため、感想文と推薦文を比べて読み、構成要素の違いや作品を評価する表現に気付かせたり、感想から推薦に書き換えるモデルを示したりしていく。

「とらえる」では、教師のブックトークを聞き、杉みき子の作品に興味をもたせる。また、5年生の友達に本を推薦する方法として読書郵便を取りあげて伝えることを伝え、学習計画を立てる。また、並行読書をしていくことも確認する。

「ふかめる」では、中核教材「わらぐつの中の神様」で、人物像・構成・表現に着目させながら読み取っていく。ひとり学びで自分の考えをもたせ、それをペアやグループで交流させていきたい。推薦文を書くために、単位時間ごとに自分の感想や考えをまとめていき、それらに作品の評価を加え叙述を整えて「わらぐつの中の神様」の推薦文を書かせる。

「ひろげる」では、中核教材で習得したことを活かし、児童がそれぞれ選んだ補助教材の作品で自分の考えをまとめ、推薦文を書かせていく。推薦の方法は読書郵便とし、5年生の友達に送るという相手・目的意識をしっかりとらせていく。また、杉みき子の作風を感じ取らせたり、読書意欲の向上を図ったりしていきたい。

(4) 活用させたい「知識・技能」

(既習) 事項 ○前学年 ●前単元	(既習) 事項の活用 ・本単元
<p>【C 読むこと】 「文学的な文章の解釈」 ○登場人物の性格や気持ちの変化を想像して読むこと。 ○文章などを引用したり要約したりすること。 ○文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくこと。 ●心情を表す描写をとらえ、自分の考えをまとめること。 ●考えたことを発表し合い、共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを深めたり広げたりすること。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 「言葉の特徴やきまりに関する事項」 ○慣用句の意味を知り、使うこと。</p>	<p>【C 読むこと】 「文学的な文章の解釈」 ・登場人物の相互関係から人物像や心情をとらえ、表現の仕方にも注意して読み取る。 ・優れた叙述について自分の考えをもつ。 ・複数の本や文章を比べて読み、違いを発見したり、読書の範囲を広げたりする。 ・考えたことを発表したり、書きまとめたものを読み合ったりし、共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを深めたり広げたりする。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 「言葉の特徴やきまりに関する事項」 ・様々な表現の工夫に気づき、その効果について考える。</p>

3 単元の目標と評価規準

観点	目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	○目的をもって、意欲的に教材文や選んだ本を読もうとする。	・推薦文を書くために、進んで教材文や本を読んでいる。
読む能力	◎叙述から作品の特色をとらえ、自分の考えをまとめることができる。(エ) ○推薦文を書くという目的に応じて、複数の本や文章を比べて読むことができる。(カ)	・人物像・構成・表現の工夫などを観点に作品の特色をとらえ、自分の考えを推薦文にまとめている。 ・比べ読みを通し、違いを発見したり、読書の範囲を広げたりしている。
言語についての知識・理解・技能	○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。(伝イ(ケ))	・様々な表現の工夫に気づき、その効果について考えている。

4 単元の指導・評価計画 (12時間扱い)

段階	時間	目標	○学習課題 ・主な学習活動 ☆主な支援の手立て	評価基準 【評価の観点】 (評価方法)
とらえる	1	杉みき子の作品に興味をもち、推薦文を書くという学習の見通しをもつことができる。	○杉みき子の作品について知ろう。 ・杉みき子作品のブックトークを聞く。 ☆5年生の友達に読書郵便(推薦文)を出すという相手・目的意識を明確にもたせる。	杉みき子の作品に興味をもっている。 【関・意・態】 (発言・ノート)
	2	既習の紹介の方法や内容について振り返りながら、学習計画を立て	○学習計画を立て、見通しをもとう。 ・既習の紹介の方法や内容を振り返る。 ・学習課題「作品のよさが伝わる読書郵便を送ろう。」	単元の学習課題をもとに学習計画を立てている。

		<p>ることができる。</p>	<p>から、学習計画を立てる。 ☆推薦文を書くというめあてをもち、学習の見通しがもてるようにする。</p>	<p>【関・意・態】 (発言・ノート)</p>
ふかめる	3	<p>感想文と推薦文を比べ読みし、推薦文の構成要素や表現のよさに気付くことができる。</p>	<p>○二つの文章を比べて読み、推薦文に入れる内容について考えよう。 ・二つの文章を比べて読み、違いを整理する。 ・推薦文に入れる内容について話し合う。 ☆二つのモデル文にサイドラインを引かせて構成要素の違いを見付けさせ、推薦文に入れる内容を話し合わせる。</p>	<p>二つの文章を比べて読み、推薦文に入れる内容を考えている。 【読む能力】 (ワークシート)</p>
	4	<p>「わらぐつの中の神様」を読み、感想を交流することができる。</p>	<p>○「わらぐつの中の神様」を読み、感想を交流しよう。 ・初発の感想を書き、感想を交流し合う。 ☆交流した感想をもとに、推薦文を書くためにどのような視点で読んでいくか方向付けていく。</p>	<p>全文を読んで感想をもち、感想を交流している。 【読む能力】 (観察・ワークシート)</p>
	5・6	<p>登場人物の人柄や考え方を読み取ることができる。</p>	<p>○登場人物の人柄や考え方を読み取ろう。 ・おみつさんと大工さんのわらぐつに対する思いを読み取る。 ・マサエの心情の変化を読み取る。 ☆会話や行動の叙述にサイドラインをひかせ、それを根拠に人柄や考え方を読み取らせる。</p>	<p>登場人物の人柄や考え方を読み取っている。 【読む能力】 (発言・ワークシート)</p>
	7	<p>構成や表現の効果について考えることができる。</p>	<p>○表現の工夫によってどんな効果が生まれているか考えよう。 ・時間の設定、種明かしをする手法について考えをもつ。 ☆表を使い、構成の工夫をとらえさせる。 ・表現の工夫にサイドラインを引き、感じたことを書く。 ☆擬態語や擬声語、色彩を表す語句、ダッシュを用いることによって、イメージを膨らませられるようになっていることをおさえさせる。</p>	<p>構成や表現の効果について、自分の考えを書いている。 【読む能力】 (観察・ワークシート)</p>
	8	<p>構成や評価語彙を考えながら「わらぐつの中の神様」の推薦文を書くことができる。</p>	<p>○「わらぐつの中の神様」の推薦文を書こう。 ・モデルを参考に、推薦文を書く。 ☆モデルを示しながら、5～7時間目の学習で書いた感想や考えを推薦文に書き換えさせる。</p>	<p>構成や評価語彙を考えながら「わらぐつの中の神様」の推薦文を書いている。 【読む能力】 (ワークシート)</p>
	9	<p>「わらぐつの中の神様」の推薦文を交流し、自分の考えを深めることができる。</p>	<p>○「わらぐつの中の神様」の推薦文を交流しよう。 ・交流して相互に評価し、自分の考えを深める。 ☆友達の記事を読ませ、自分の考えを広げたり深めたりさせる。</p>	<p>交流を通して自分の考えを深めている。【読む能力】 (観察・ワークシート)</p>
ひろげる	10・11	<p>選んだ本の特色をとらえ、推薦文にまとめることができる。</p>	<p>○自分が選んだ本のよさが伝わる推薦文を書こう。 ・並行読書してきた本から一冊選び、推薦文を書く。 ☆児童の「わらぐつの中の神様」の推薦文をモデルとして示す。</p>	<p>選んだ本の特色をとらえ、推薦文を書いている。 【読む能力】 (ワークシート)</p>

12	選んだ本の推薦文を交流し、自分の考えを深めることができる	○杉みきこさんの作品の推薦文を交流しよう。 ・交流して相互に評価し、自分の考えを深める。 ☆友達の記事を読ませ、自分の考えを広げたり深めたりさせる。 ☆杉みき子の作風を感じ取らせたり、読書意欲の向上につなげさせたりする。	交流を通して自分の考えを深めている。 【読む能力】 (観察・ワークシート)
----	------------------------------	---	--

5 本時の指導 (8 / 12)

(1) 目標

構成や評価語彙を考えながら、「わらぐつの中の神様」の推薦文を書くことができる。

(2) 本時の指導にあたって

本時は、5～7時間目でとらえた作品の特色を、推薦文に書く学習である。推薦文という表現様式で書くということは初めてであるため、モデルを示して書き方を学ばせていきたい。単元の学習課題が「作品のよさが伝わる読書郵便を送ろう」であることから、作品の特色やよさを具体的に伝えられるように、モデルをもとに構成を考えさせたり評価語彙を加えさせたりしていく。再度自分の考えを整理して書き換えやまとめるといった思考操作をさせながら、相手が「わらぐつの中の神様」が読みたくなるような推薦文を書かせていきたい。

< 仮説との関わり >

- 手立て1 ・人物像・構成・表現を観点に作品の特色をとらえる。
- 手立て2 ・推薦文を書くためのモデル提示をする。
・交流の視点を与えて、ペアで助言し合えるようにする。
- 手立て3 ・本時で身に付けた力を確認できるような振り返りをさせる。

(3) 展開

段階	学習内容・学習活動	支援の手立てと評価の観点	準備
とらえる 3分	1 前時までの振り返りをする。 2 本時の課題を確認する。 「わらぐつの中の神様」の推薦文を書こう。	・作品の特色をとらえる学習を行ってきたことを想起させる。 ・学習計画表から本時の課題を確認する。	学習計画表
たしかめる	3 課題解決の見通しをもつ。 ・モデル文から推薦文の書き方を考える。 【活用】手立て1 人物像・構成・表現を観点にする。 【活用】手立て2 推薦文を書くためのモデル提示をする。 4 課題を解決する。 ・前時までのワークシートをもとに、作品のよさが相手に伝わるように書く。 ・作品の評価語彙を入れて書く。	・感想から推薦への書き換えの仕方をつかませる。 ・字数は、250～300字程度とする。	モデル文 評価語彙表 ワークシート

35分	<p>5 書いたものを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで推薦文を交流し合う。 ・作品のよさが伝わる推薦文になっているか確かめ合う。 <p>【活用】手立て2</p> <p>交流の視点を与えて、ペアで助言し合う。</p> <p>6 全体にひろめる。</p>	<p>【目指す姿】</p> <p>モデル文を活用しながら、作品のよさが伝わる推薦文を書くことができる。</p> <table border="1" data-bbox="751 315 1294 667"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="751 315 1294 432"> <p>[評価基準] (読むこと)</p> <p>構成や評価語彙を考えながら「わらぐつの中の神様」の推薦文を書いている。(ワークシート)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="751 432 1038 548"> <p>具体の評価基準 B</p> </td> <td data-bbox="1038 432 1294 548"> <p>努力を要すると判断された児童への具体的な手立て</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="751 548 1038 667"> <p>作品の特色がよくわかるように、構成や評価語彙を考えながら推薦文を書いている。</p> </td> <td data-bbox="1038 548 1294 667"> <p>推薦の要素を一つにしぼり、モデルをもとにして書かせる。</p> </td> </tr> </table> <p>・交流の視点は、①推薦の観点(人物像・構成・表現)が書かれているか②作品を読みたいと思うような文章になっているかの二点とする。</p> <p>・いくつかの推薦文を取り上げ、書き方のよさを全体にひろめる。</p>	<p>[評価基準] (読むこと)</p> <p>構成や評価語彙を考えながら「わらぐつの中の神様」の推薦文を書いている。(ワークシート)</p>		<p>具体の評価基準 B</p>	<p>努力を要すると判断された児童への具体的な手立て</p>	<p>作品の特色がよくわかるように、構成や評価語彙を考えながら推薦文を書いている。</p>	<p>推薦の要素を一つにしぼり、モデルをもとにして書かせる。</p>	
<p>[評価基準] (読むこと)</p> <p>構成や評価語彙を考えながら「わらぐつの中の神様」の推薦文を書いている。(ワークシート)</p>									
<p>具体の評価基準 B</p>	<p>努力を要すると判断された児童への具体的な手立て</p>								
<p>作品の特色がよくわかるように、構成や評価語彙を考えながら推薦文を書いている。</p>	<p>推薦の要素を一つにしぼり、モデルをもとにして書かせる。</p>								
まとめ 7分	<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 自己評価と感想を記述する</p> <p>(2) 感想を発表する</p> <p>【活用】手立て3</p> <p>本時で身に付けた力を確認できるような振り返りをさせる。</p> <p>8 次時の学習内容を知る。</p>	<p>・評価の観点は、「学習内容の理解」と「活用」の二点とし、自己評価させる。</p>							

(4)板書計画

